

度肝を抜きなはれ!

坊っちゃん劇場支配人 山川龍巳



「地方発信の舞台は都会人の度肝を抜かなあきません!抜きなはれ!」。
なまはげ伝説を題材にした、わらび劇場第1作目「男鹿の於仁丸(おがのおにまる)」の作、演出家、大関弘政(宝塚)先生が稽古の時、役者やスタッフを激しく叱咤激励しながら、飛ばしていた言葉である。「地方だからと甘えたらアカン。驚かせましょ!」。

「小説坊っちゃん」の100周年を記念してジュームス三木先生(坊っちゃん劇場名誉館長)に松山の側から見たミュージカル「坊っちゃん」

ん!」を書いていただき、わらび劇場のノウハウのすべてを持ち込んで4月にオープンした坊っちゃん劇場も、公演回数は12月までで215回、来場者も5万人を越えた。

「憧れの道後温泉に行きたくて周辺の観光地をネットで探していたら、ここに行き着き、来ました。本当にびっくりしました。また、来年も絶対来ま

す」(東京からの旅行者)「97歳の母が笑って泣いて見ていました。長生きしてよかったと伝えてくれと言っています」(高知県主婦)「高校生の娘があまりそうと言っています」(松山市主婦)。「ミュージカルというとなじめないものと思っていたが、これは小学生から年配者まで楽しめるおもしろい舞台」(大阪の旅行社)など本当に励まされる感想に勇気をいただいている。

今年の9月からミュージカル「坊っちゃん」は「わらび座」によって全国公演が展開される。そのメインイベントが、11月に行われる東京足立区北千住の「シアター1010」での公演である。約1ヶ月間に及ぶ公演になりそうだが、「愛媛県の文化大使」としての役割を果たすことができると張り切っている。



坊っちゃんに続き、2作目のミュージカル「吾が輩は狸である」(四国たぬきのロミ・ジュリ物語)がこの1月から秋田のわらび座で稽古に入った。3作目はジュームス



ミュージカル「坊っちゃん!」より

三木作・演出で「坂本竜馬」を素材にした舞台が予定されている。

韓国語・中国語・英語の音声ガイドシステムも導入して、外国人観光客の皆さんにも楽しんでいただける準備も整えた。今年の2月には米軍岩国基地のご家族が31人来られる予定だ。愛媛県を四国を舞台芸術で宣伝する新しい観光施設として日本に世界に向けて、まだささやかではあるが「度肝を抜ける」施設になれば幸せである。